



## 非認知能力育成による 落ち着いた学校づくり

勝央町立勝間田小学校

### 1 はじめに

本校は、岡山県の北東部に位置し、豊かな自然に囲まれた全校児童427名の学校です。令和元年度末より、不安定な学校状態の安定化を図るため、児童の非認知能力の育成に取り組んでまいります。以下、その取組の概要を紹介します

### 2 取組の概要

#### (1) 講師の招聘と理論・実践研究

県「夢育」アドバイザーである岡山大学の中山芳一准教授に度々ご指導をいただき、非認知能力育成に関する理論・実践研究を、校内研修に位置づけながら行ってきました。

#### (2) 「行動指標」の作成

学校教育目標を非認知能力の観点から言語化・共有化し、具体的な行動に落とし込む「行動指標」作りに取り組みました。



中山准教授を招聘しての校内研修会

「アイデアドーナツ」というツールを使いながら、チャンクダウン方式で全職員が話し合い、6つの非認知能力と3段階別12の具体的行動を設定し、効果的に活用を図っています。

#### (3) 行事を通じた非認知能力の育成

日常で身につけた非認知能力を学校行事で発揮しさらに伸ば

していくため、独自のチェックシートを作成し「自己認識↓目標設定↓振り返り↓再認識」の自己評価活動に取り組みました。自分自身の行動をしっかりと振り返ることで、一人一人に新たな目標を持たせるように努めてきています。

#### (4) 授業を通じた非認知能力の育成

「行動指標」を分かりやすくイメージ化した「きんとくんアイコン」を作成し、授業の中で発揮すべき非認知能力を明確に示すようにしてきました。また、学習指導案の中に意図するギミックや児童の感情曲線等を併記



心揺さぶる仕掛けのある授業（2年生生活科）

し、心揺さぶる仕掛けのある授業作りにも挑戦してきました。

#### (5) 非認知能力の視点を生かした保健室指導

数名の不登校児童に対して、育てたい非認知能力を明示した「アセスメントシート」を作成し、積極的に支援を行ってきました。また、手洗い指導や歯磨き指導等でも、学校行事と同様の自己評価活動を取り入れ、一人一人が自らの能力を意識しながら取り組めるように工夫を行ってきました。

### 3 おわりに

これまでの3年間、児童の非認知能力の育成に取り組む中で、次第に児童や教職員の笑顔が増え、学校全体が落ち着いた状態に変化してきました。今年度は新たに、「行動指標」に示された6つの非認知能力に対する自己評価を年間4回実施します。また、クラブ・委員会でも自己の非認知能力を振り返る活動を取り入れるなど、さらなる取組の充実を図り、児童一人一人の非認知能力を一層高めていきたいと考えています。

（校長 松永 匠人）